

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設時より、地域に根ざし、利用者・家族・職員が互いに思いやり、尊敬し、助け合って「心安らぐ生活の場」になるようにとの願いを込め理念を創っている。</p>	<p>理念を基本とした自立支援の基に家族のように生活していることを、いろいろな交流で触れ合う方々に、もっと理解していただけるようにしたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>入職時を始め職員会議において、理念について説明し、理念浸透に努めている。</p>	<p>機会あるごとに理念の共有に努め、サービス向上に努める。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関の掲示や、重要事項説明書、機関紙「まほろば」への掲載などを行っているが、直接地域の方々への説明はしていない。</p>	<p>外出、買物、散歩、外食、訪問など地域の方とふれあう中で、理念の実践を感じていただいていると思っているが、家族や地域の方への浸透に努めたい。</p>
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>地域の方々には、サロンへの参加や特養への洗濯ボランティアとして協力いただいております、利用者様とも顔見知りの方もおり、日常的な付き合いとまではいかないが、親しくしている。</p>	<p>利用者のその日の様子や各人の性格もあり、地域の方の訪問が負担になるときもある様に思うが、地域の方との交流を大切にしたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>老人会からお餅やちらし寿し等差し入れていただいている。保育園児の訪問があったり、保育園・小学校の音楽会・運動会等の行事に参加したりと子供達との交流も盛んに行っている。また、地域の芸能発表会等に招待されたり、地域のボランティアとも交流している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>町から委託されている介護予防教室で専門医の講演を聞く機会を設けたり、健康体操指導で介護予防に対する情報発信に努めている。</p> <p>認知症高齢者に対する理解を深めたり、家族の悩みに耳を傾ける機会を設けることができる様、職員一人ひとりのレベルアップに努めたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>委員のより一層の理解と活発な意見交換ができるように、プライバシーを守りながら利用者の日々の生活について、報告の仕方・会議の方法を工夫する。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>成年後見人制度については職員も理解しており、町や関係者と話し合いをしたり、医師の協力を得たりし、後見人の決定に努めている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>虐待防止について職員もよく理解し共通認識で利用者を支援している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2年以上介護職員の異動はなく、なじみの職員が利用者の生活を支えている。前看護師が退職後、後任の看護師については施設の嘱託医と共に往診に来ていたこともあり、グループホームのことを知っており、利用者には安心して相談できる存在である。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、施設外研修への参加を勧めている。又、研修報告書については施設内回覧をしている。自己研修により昨年度は2名が介護福祉士資格を取得しており、介護福祉士の占める割合は75%となっている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉法人運営の他のグループホームとの情報交換はあるが、町内のNPO法人運営のグループホームとの交流はない。		前回の第三者評価でも指摘されたが、情報交換の場を持つ機会が作れていない。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特にこれといった事はしていないが、一緒にお茶を飲んでいろいろなことを話し合ったり、職員の希望や意見を聞き、職員の思いを共有できるように努めている。		互助会の旅行や催し物には参加できるように配慮はしているが、ストレスを軽減する工夫をしたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月職員会議で目標を決め、目標達成に向けて努力したことを自己評価し、利用者の生活の質を高められるよう努力している。又、勤務状況についても把握できている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族様やケアマネからの情報収集はもちろんのこと、併設施設のサービスを利用の方には何気なく話しかけたりしながら、本人の思いや状態の把握に努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が抱えている現在の悩みや不安等を、家族の立場になって話を聴き受け止める努力をしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ケアマネからの情報収集や本人家族への面接で本人の状態把握をしている。又、家族との話し合いでグループホームが本人にとって適正なサービスになるか見極めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>グループホームを利用する前に、家族と利用者で見学してもらうことにしている。その上でグループホームの雰囲気を十分に味わってもらい、納得してから利用していただくよう配慮している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>玄関を出たところに事業所の畑を作っており、畝の作り方や肥料のやり方等を教えて頂いたり、収穫を共に喜び合う関係を築いている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者の状態・希望、又家族の要望で付き添って頂いたり、定期的に家族様とコミュニケーションをとり、共に支え合う関係を築いている。		
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者との関係がこじれ音信不通の場合は、電話や手紙で近況報告したり、家に出向き良い関係が築けるよう心をくわしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスの利用者が訪ねてきて会話を楽しまれたり、近隣の友人の訪問を受けた場合等は居室でお茶を飲みゆっくりと過ごせるよう配慮している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しがちな利用者を中心にレクリエーションを勧めたり、特技や趣味を議題にして利用者同士が関わり合い支え合うよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も家族様の訪問があり様子をうかがい知ることが出来るが、面会に行くこともあり、良好な関係作りに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員が利用者と食事やお茶を共にし、同じ目線でゆっくりと話を聞き希望や意向の把握に努めている。	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	入所契約日に本人や家族様からこれまでの生活歴や趣味等を聴き、その人らしい暮らしを大切にされたケアに努めている。	今後も家族様と交流を密にし、これまでの生活の把握に努める。
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	一人ひとりの心身の状態を把握し、出来ること・出来ないことを見極めながら支援している。	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人や家族様の意向を伺い、医師・看護師・管理栄養士・鍼灸師の助言も受けながらケアカンファレンスを行い、より良い介護計画の作成に努めている。	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	入院後や心身の状態変化が見られた場合等は、状況を把握し速やかに介護計画の見直しを行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録でその日の状態・様子を確認できるようにし、申し送り等で情報を共有し、その人に合った支援に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急を要する受診への対応や家族様の都合・要望に応じられるようにしている。グループホームの利用者・職員がデイサービスのレクに参加し交流を図っている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者を支援する上で、必要とされる場合はボランティア・警察・民生委員にも協力を得られるようにしている。地域住民や保育園児の見学のもと、消防署と合同の消防訓練を実施、指導を受けた。		保育園・小学校との運動会・音楽会・誕生会等の交流を、今後も積極的に図っていきたい。
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の要望があれば併設のデイサービスのレクリエーションに参加できる体制を作っている。又、認知症対応型デイとは月2回実施の音楽療法士による音楽療法や合同レクで利用者・職員共に交流している。		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	太子町の依頼により緊急に保護した利用者について、その後の支援・経過を報告している。又、成年後見人制度の利用に際しても太子町地域包括支援センターと協働している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	ケアマネやケア関係者から情報を得て利用者や家族と話し合いを行い、納得して頂き安心して住み替えができるよう支援している。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は入職時に「個人情報に関する誓約書」を提出することとし、人権を尊重し知り得た情報は口外しないよう職員全員に徹底している。個人情報に関する基本方針を定め、介護記録等は個人情報保護法に基づいた取り扱い・管理を行っている。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	わかりやすい言葉で、ゆっくり・はっきりと説明する等、利用者が自分の思いを表出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	利用者一人ひとりの思いを大切に、これまでの生活に少しでも近づけるよう、利用者本位のサービスを職員全員が心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	理・美容院の出張サービスでカット・顔そりのサービスが利用できている。髪型も日頃から本人の好みを把握し、理・美容師にその旨を伝え利用者に満足して頂いている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>そうめん流しやパーベキューなど、家族と一緒に楽しむ機会を増やしたい。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が買物に同行し、利用者が好物や必要なものを自分の財布からお金を支払って購入することで、買物をする喜びを味わって頂いている。		買物の回数を増やしたり、移動販売(イトーヨーカドー)を大いに利用していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物など希望があれば職員が同行している。天気の良い日には散歩に出かけ、リフレッシュして頂いている。近くにある荒神さんには毎日お参りし、疲れない程度に境内の掃除も行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食、ドライブ、カラオケ、買物など利用者の希望に添って出かけている。		家族と一緒に日帰り旅行を計画したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち自由に使用されている方もいる。又、レターセットも書きたい時に自由に使えるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人・デイサービスの利用者・馴染みの方等が、いつでも気軽に訪問しお茶や食事を一緒にゆっくりと楽しんで頂けるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の理念に基づき、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。併設施設と合同の身体拘束委員会を定期的開催し、職員には周知徹底している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤者一人の時間以外は、利用者が自由に出入りできるように玄関の鍵は開けている。居室の鍵は利用者自身が内側からかけることはあっても、職員がかかることはない。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在や様子を把握し危険の回避に努めている。お部屋で過ごされている方への言葉かけを怠らず、確認を行っている。夜勤帯は2時間毎の巡回を徹底している。特に発熱や体調不良の利用者には、頻回の訪問・見守りをしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	トイレ・台所・風呂の洗剤及び包丁は各保管場所に収納し、一部は鍵を掛け保管している。個人所有の義歯洗浄剤・はさみについては自己管理の難しい方のみ、職員が管理させていただいている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員全員が日々気づきを大切にし、情報を共有しながら事故防止に取り組んでいる。一人ひとりの状態に応じた対応を日々心がけている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署より講師を招き、夜勤者以外全員が参加し、緊急時の対応についての施設内研修を実施している。心肺蘇生法やAEDの使用についても実際に体験し、緊急時にも慌てず対応できる様にしている。		緊急時の対応についての勉強会を定期的を実施したい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回消防訓練を実施するとともに、地域の協力を得られる体制づくりをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日頃から拘束ゼロの対応に努め、家族にはリスクについての説明を行っており、変化があれば早急に連絡を取っている。その人らしい生活ができるように職員で話し合い見守りに努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインのチェックと一般状態の観察につとめ、小さな変化も見逃さないよう、申し送りノートを活用し職員間で情報を共有している。又、家族様にも早目の受診をお願いしている。		
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬されている薬の確実な服用のため、見守りや一部介助・全介助を行っている。日常的に様子観察し、職員間の報告も密にしている。個人毎に薬の説明書のファイルを作り、職員全員が薬の服用目的や副作用、用法・用量について理解している。		
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日定時に排便確認をしている。水分補給と適度な運動を取り入れ、おやつは手作りで食物繊維の豊富な寒天やフルーツ、豆を使用したものを多く取り入れている。チェック表により排便状態を確認し、排便が見られない時は看護師に相談し対応している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	言葉かけにより利用者の力を引き出しながら、歯磨きや含嗽を行っている。就寝時には義歯を洗浄液につけ、清潔を確保している。毎食後の歯磨きを行っても口臭のある方には、歯科受診をお願いし改善に努めている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個別に記録している。1日3度の食事に加え、午前10時・午後3時・湯上り等、十分な水分摂取量を確保している。体調不良の利用者には個別の記録を取っている。管理栄養士の指導のもと、栄養のバランスのとれた食事を提供し、個人的な嗜好品も提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会での報告や決められたことは、職員全員に周知徹底されている。汚物処理用のバケツや消毒液などの取り扱いもマニュアルにより明示されており、いつでも確認できるようにしている。外来者にはマスク使用や手指消毒をお願いしている。		外出から帰ってきた時はもちろんのこと、日常的に手洗い・含嗽を励行し、必要があればマスクの着用を促している。外来者にもマスク使用や手指消毒をお願いしている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎回食器乾燥機を使用し、定期的に消毒液を使用している。冷蔵庫は週1回定期的に掃除し、物品の消費期限を確認し衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	畑の前に長椅子や椅子・テーブルを置きいつでも外気浴や日光浴ができ、心地良く気分転換していただけるように努めている。玄関には手作りの表札をかけている。		地域の方々が気軽に入出入りできるよう、常日頃から交流や言葉かけに努めていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵手紙や利用者の創作した作品を貼ったり、テラスにはその時々のお花を植え、季節を感じて頂けるよう努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファやテーブルを利用して模様替えを行い、気の合った者同士でゆっくりとくつろげるような空間づくりを工夫している。また、テラスには縁台を置き、つばめの巣を眺めていただいたり、そよ風に吹かれながら田植えの風景等を楽しんでいただく等している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族様には極力使い慣れた家具等の持込をお願いしている。仏壇を持ち込み自由に礼拝されている方もいる。又、使い慣れた筆笥や姿見を使用して頂き、居心地のよい居室作りに努めている。		気持ちよく生活して頂けるよう、共有空間の整理・整頓に努めると共に、安全面に配慮している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の換気を促す放送により、決まった時間に行っている。又、それ以外にも随時換気を行い、空気のだよみがないよう配慮している。空調は、利用者の体調に負担のないよう温度設定に常に気を配っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴槽等に手すりを設置し、移動の際の安全確保をしている。流しのシンクも浅くして使いやすくし、IHレンジ台の設置により比較的安全に調理ができる様になっている。物干し場も居室を出たところにあり、洗濯物や布団干しが自由に出来る。		晴れた日には、利用者と一緒にテラスで手洗いの洗濯を楽しむ等、身体機能維持のためいろいろな工夫をしていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには人型の表示や「お手洗」と文字で示しているが、加えて目線の高さに「お便所」と表示し、わかりやすくしている。献立表を設け、朝食・昼食・夕食毎に記入し楽しみにしていただいている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	居室に隣接したベランダは広く、花壇が設置しており、利用者と職員で四季の花々の手入れを楽しんでいる。散水や清掃は日課として意欲的に取り組んで頂いている。又、ゲームやティータイムの場所としても活用している。		家族と一緒に散歩していただいたり、家族の集いにそうめん流しを行う等、家族同士の交流の場としても活用している。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・家族様との関係を日頃から大切に、利用者様の生活意欲の向上と精神的・身体的安定を図るために、職員全員が協力・連携し支援している。又、利用者様と家族様との良好な関係作りに努めている。
- ・利用者様が家族と外出や外食、家の行事(法事・お墓参り・お正月・お盆)に行かれても、「早くまほろばに帰る」と言われ、家族様から日頃の支援に対する感謝の気持ちを聞かせて頂いている。
- ・「仲良く笑顔で歩こうよ」の理念のもと、地域の方々に支えられ、利用者様と職員が本当の家族のような関係を築けていると自負している。